



基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

「チャービラ祭」を開催しました!

平成29年6月8日(木)、あしびなー体育館において行事委員会の三大大行事である「チャービラ祭」を開催しました。

プログラムでは、流星保育園の可愛らしい子供達のダンスも披露され、会場からは「かわいい」等の黄色い声援も飛んでいました。また、現役職員による、琉舞や日舞も披露され普段は見ることのないスタッフの姿に驚いている患者様もいました。午後の部に入ると患者様も負けずに、12名の方がカラオケを熱唱され、3位までの方に、景品が渡されました。

こうして、患者様が大笑いしている姿、熱唱している姿、自チームを必死に応援し盛り上げる姿、息の合ったリズムカルなダンス姿など、お子様、患者様、スタッフが一緒に楽しんでいる姿は、新鮮で偏見のない純粋な場で、本来あるべき最高の人と人との繋がりのおかげだと感動しました。

入院生活の中で、毎日変化のない生活、病状で心が不安定な患者様もいると思います。



そんな患者様にとって、チャービラ祭は、心のオアシス、最高に笑い楽しめ、発散出来る場だと感じました。

今後も、行事委員リーダーを中心に、患者様からチャービラサイ(来ましたよ)、スタッフより、メンソーレ(いらっしゃいませ)と親しみを持てる関係作りを目指し、少しでも患者様の心の重みを軽くできるように、心の闇を光り輝けるように、行事委員一同、全力で企画・運営を行なってまいります。

行事委員一同

トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等建替 進捗状況 本体工事：新病棟(第1期工事)完成 平成27年7月
- 整備の動き 新病棟(第2期工事) (株)九電工
- 雨水配水管盛替工事 完成予定 平成29年2月
- 重心病棟建替等工事 完成予定 平成30年10月

教育・研修

- 重心病棟夕涼み会 日時：平成29年7月14日(金)18:30～21:00
場所：重心病棟中庭
- 高校生ふれあい看護体験 日時：平成29年7月28日(金)13:00～16:00
場所：研修棟会議室
- 国立病院機構看護職員採用試験 日時：平成29年7月29日(土)
場所：研修棟会議室

地域医療連携室だより

琉球病院では、受診相談や地域、行政、他医療機関からの窓口として地域医療連携室を設置しております。一般精神をはじめ、アルコール依存症(アディクション全般)、治療抵抗性統合失調症治療薬で効果のあるクロザピンによる治療、)認知症、児童思春期外来といった様々な疾患をお受けできる診療体制を整えております。また、中北部圏域を中心とした地域の皆様によりよい質の医療を提供し、適切な対応ができるよう充実した取り組みを行い、地域のニーズに応えられるよう日々努力していきたく思っております。また、受診のご相談はお気軽に地域連携室までお問い合わせください。



空床状況
6月27日現在

精神科病棟
3床

認知症
4床

アルコール
6床

児童思春期ユニット
4床

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

院長

福治康秀(ふくじ やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。



診療科

- 一般精神科
- こども心療科
- 物忘れ外来
- アルコール依存症等外来

病床数 406床

- 精神科病棟 181床
- 認知症 50床
- アルコール 54床
- 児童思春期 ユニット 4床
- 重症心身 障がい 80床
- 医療観察法 37床



アクセス

路線バス/那覇B5(下り)または名護B5(上り)より沖縄バス「77番名護線」浜田バス停下車徒歩3分
自動車/那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

NHO PRESS~国立病院機構通信~について

国立病院機構通信(NHO PRESS)は、国立病院機構(NHO: National Hospital Organization)という143の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。
国立病院機構(NHO)という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する「NHO PRESS~国立病院機構通信~」を発行しています。外来ロビーに設置していますので、ぜひご覧になってください。
なお、ホームページに最新号と過去のものを掲載していますので、そちらもぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。

NHO PRESS 検索 QRコード

お問い合わせ時間
8:30~17:15(土・日・祝日以外)
TEL: 098-968-2133(代)
内線: 231・234
地域医療連携室(直通)
TEL: 098-968-3550
FAX: 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピンの治療状況

平成22年から治療抵抗性統合失調症の患者様に対してクロザピン(CLZ)治療を開始し、全症例は210例になりました。平成29年5月のCLZ導入は5例で、このうちの3例は他の病院からご紹介の患者様でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様も多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離は解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT(修正型電気けいれん療法)の治療状況

当院では、m-ECT(修正型電気けいれん療法)による治療を行っております。平成29年5月の治療実績はありませんでした。

こども心療科

当院では神経発達症候群(発達障がい)の診断後、特徴の説明をする際に独自の資料を使っています。一般的な発達特徴や対応について説明しますが、その中では「短所」と思われている部分が一方向では「長所」にもなりうることを強調してお伝えしています。「短所は実は長所にもなる」という理解の仕方には少し練習やコツが必要なため、保護者会ではお子さんの行動が他の方からはどう感じるか意見を出し合ってください。行動の肯定的な意味を他者から伝えてもらうことで、「そういう見方もあるんだ」と体験して頂き、すぐにはできなくても複数の視点で理解する良さや一人で抱えないで相談しあうことの大切さを実感して頂くことが目的です。時には参加者から笑いが生じることもあり、同じ悩みを抱えた保護者同士でつながり合うことの大切さが伝わります。昨年度開催した発達障がい児童の保護者会はのべ参加者数66人でした。今年度も毎月第2・4月曜日の午前中に開催しております。通院されている方が対象となりますので、参加ご希望の際は主治医にご相談下さい。

認知症医療

<認知症の方に対するコミュニケーション技法について>

認知症高齢者の方が、症状が悪化し入院となった際に、生活環境が変わったことや入院の理由が理解できないために混乱することがあります。入浴や排泄の時の介護抵抗が出現したり、治療を拒否することも少なくありません。

そこで私たちは、物忘れや失敗を頭ごなしに否定したり、教え込もうと説得をしないこと(自尊心を傷つけない)、相手の主張を受け入れる態度で接することを心がけ、日々のケアにあたっています。

最近では、フランスのイヴ・ジネスト氏によって開発された「ユマニチュード」という新しいコミュニケーション技法が注目されています。

これは、見る、話しかける、触れる、立つという4つの方法が柱となっており、例を挙げると「目の高さを同じにする」「優しく背中をさすったり歩く時にそっと手を添える」など認知症高齢者が安心するような接し方で、全部で150以上もの技術があります。

私どもの病棟においても、これらの技術を取り入れ、専門の高い看護を提供しています。

重症心身障がい医療

平成29年6月10日(土)～11日(日)、第54回重症心身障害児(者)を守る会、全国大会が石川県の金沢市で開催されました。障害保健福祉施策の歴史説明、昨年の障害者総合支援法・児童福祉法の一部改正法が成立された旨の行政説明がありました。障害児福祉計画が義務づけられ、教育体制の整備、医療的ケアを要する障害児の適切な支援等が示されています。また、今年3月には医療型障害児入所施設と療養介護の両方の指定を同時に受けられる、児者一貫の継続が維持される事になりました。分科会では年齢や状態に応じた支援について国立病院機構の各病院においての取り組み等が発表されました。障害福祉施策が大きく展開するなかで、より充実した療育の提供が求められています。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では5月現在、外来通院の患者様69名、入院中の患者様26名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。また、当院の外来での調査では、レグテクト内服を継続している患者様の方が、治療継続率が高いという結果も出ております。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療 (ACT)

訪問看護は、医療と地域の連携がスムーズに出来るよう、地域の関係機関とのネットワークの充実を図り、個別的支持を行っております。多職種チームで、利用者様のストレングスに着目した訪問看護の構築を目指し、北部・中部地区の訪問区域を包括的な訪問活動を展開しています。

梅雨前線が活発化し、広い範囲で激しい雨が降り、土砂崩れや地盤が水分を含んでいます。先日本部町での訪問時、訪問看護車が、泥濘に車はまり発進することが出来ない状態を、訪問看護利用者様が、手際よくハンドル指導や泥濘の補強を行い難を脱することが出来ました。本当に有難うございました。

臨床研究部活動状況

「Clozapine投与中に生じた6例の無顆粒球症、10例の白血球減少・好中球減少症 —Clozapine開始時の年齢の重要性—

医師 木田 直也

琉球病院では2015年5月までに138例の治療抵抗性統合失調症にclozapine(CLZ)治療を行い、6例の無顆粒球症と10例の白血球減少・好中球減少症を経験した。平均発現時期は無顆粒球症が3.3ヶ月、白血球減少症・好中球減少症が9.7ヶ月だった。50歳未満の無顆粒球症の発現はなく、白血球減少症・好中球減少症の発現率も3～8%程度と低かった。しかし無顆粒球症の発現率は50歳代では8%、60歳代では33%と上昇し、白血球減少症・好中球減少症の発現率も50～60代では11%以上と高くなった。年齢、リスク遺伝子、過去の治療歴などがその原因と考えられた。当院では2014年に60歳以上の症例へのCLZ導入を中止してからは無顆粒球症の発現はなく、白血球減少症・好中球減少症の発現率も減少した。治療抵抗性例に対しては抗精神病薬の長期多剤併用療法になる前にCLZ治療を早期に開始することが重要である。

臨床精神薬理 19:1015-1025, 2016 抄録より抜粋